

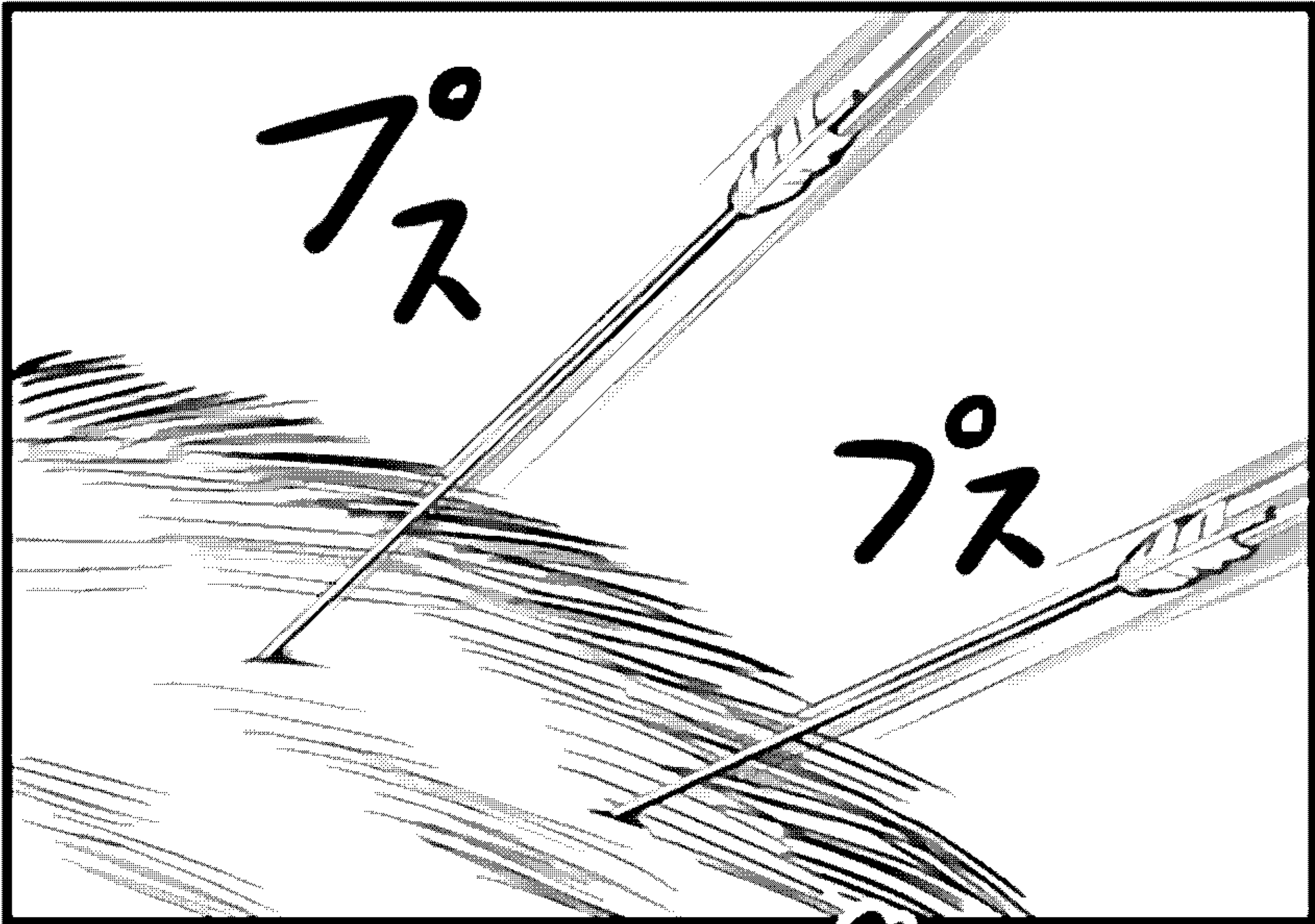
エウウウウ



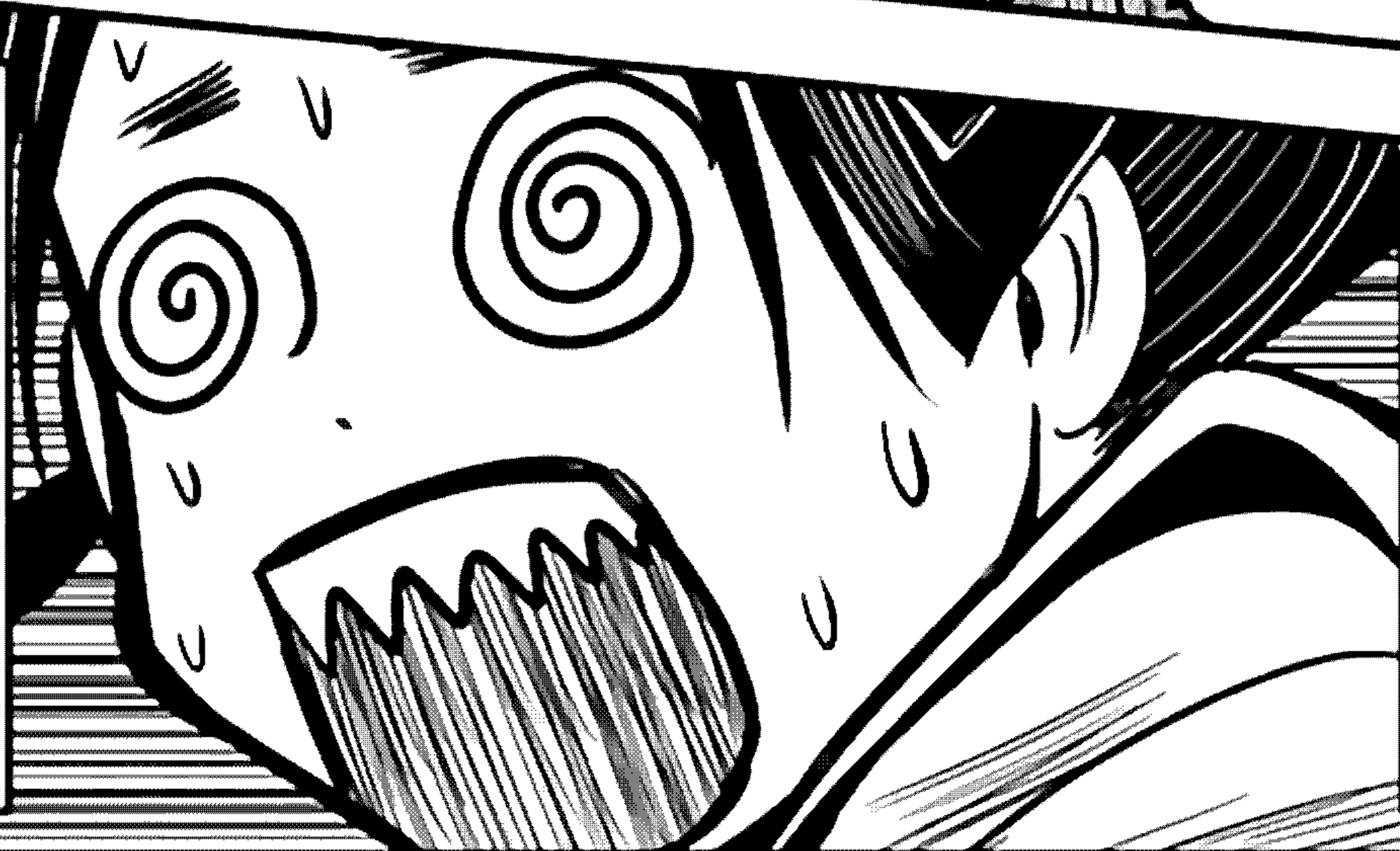
…連皮毛
都打不穿

…話說

它發怒了
在瞪我們

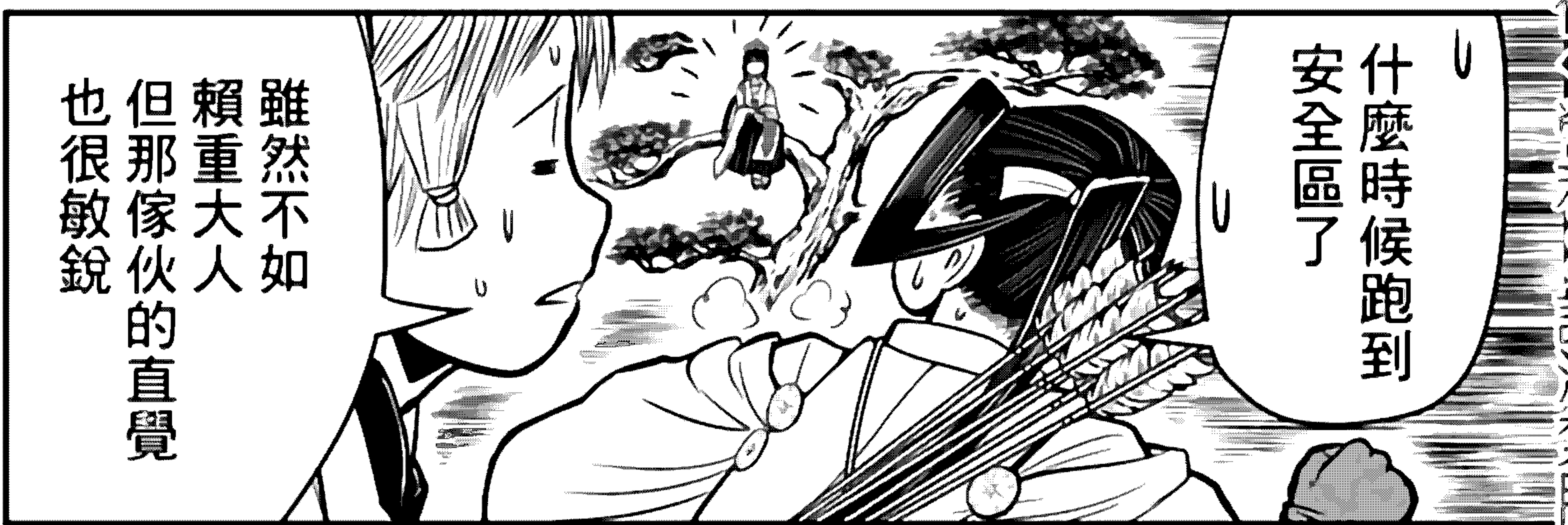
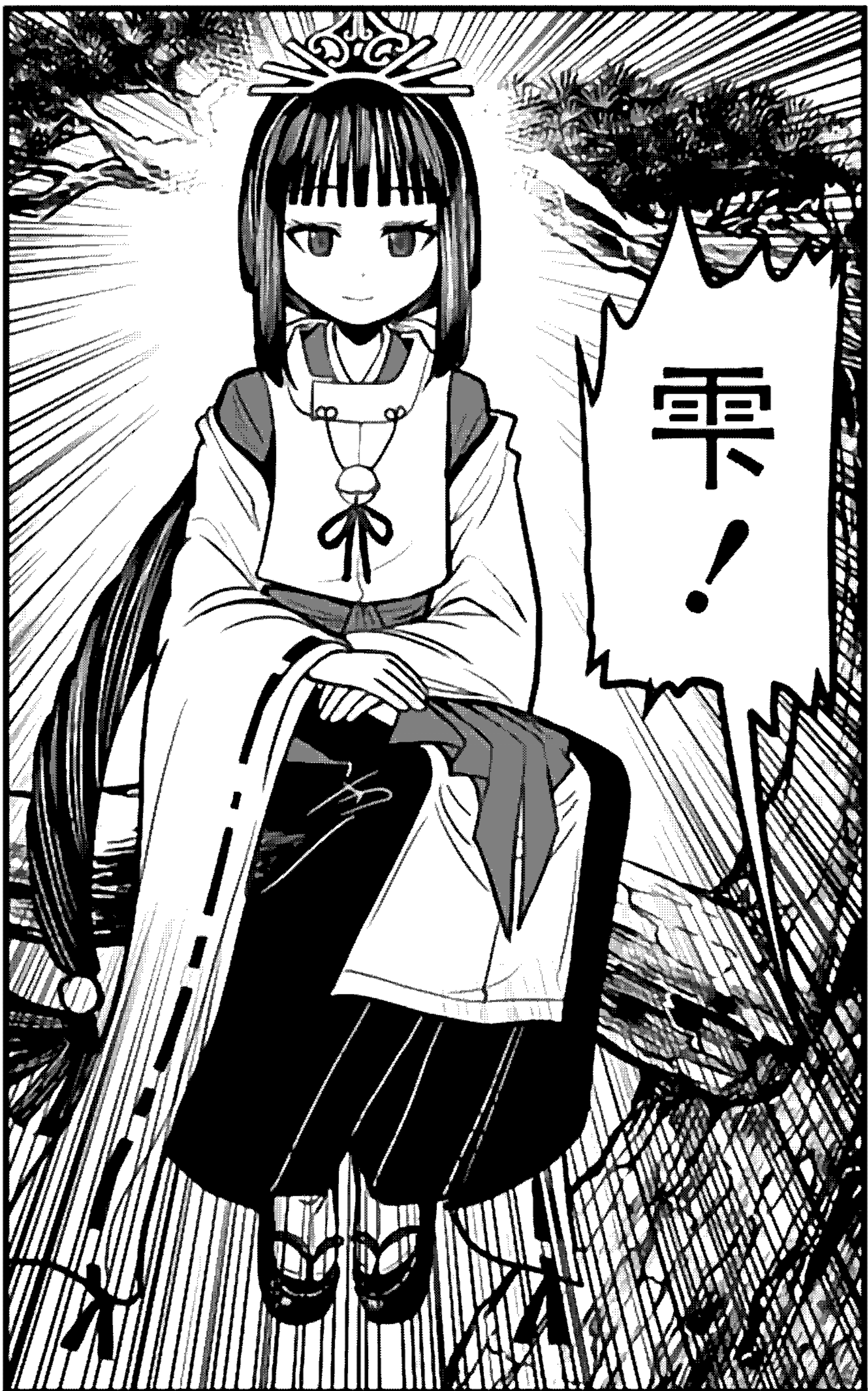


快逃!!



居然會跑出
這種生物!

諏訪好恐怖!!



人物紹介

じんぶつしょうかい



北条時行

ほうじょうときゆき

北条家末裔。「逃げ」が武器。
現代なら「逃走中」で無双。



諏訪頼重

すわよりしげ

諏訪大社当主。インチキ
未来予知で時行を補佐。



足利尊氏

あしかがたかうじ

突如、鎌倉幕府に反旗を
翻し滅ぼした。時行の仇。

時行大人

請您
一邊躲閃
一邊誘導
那隻野獸

把它引到
那座山丘上去

那棵孤零零的
落葉松就是標記

……？

在此期間
二位就搶先
繞到山丘上

你們很清楚

那棵樹下
有什麼吧

……原來如此
我知道你
想幹什麼了



少主那傢伙
就暫時
交給你！

好！



交……

交給我！？



喂……

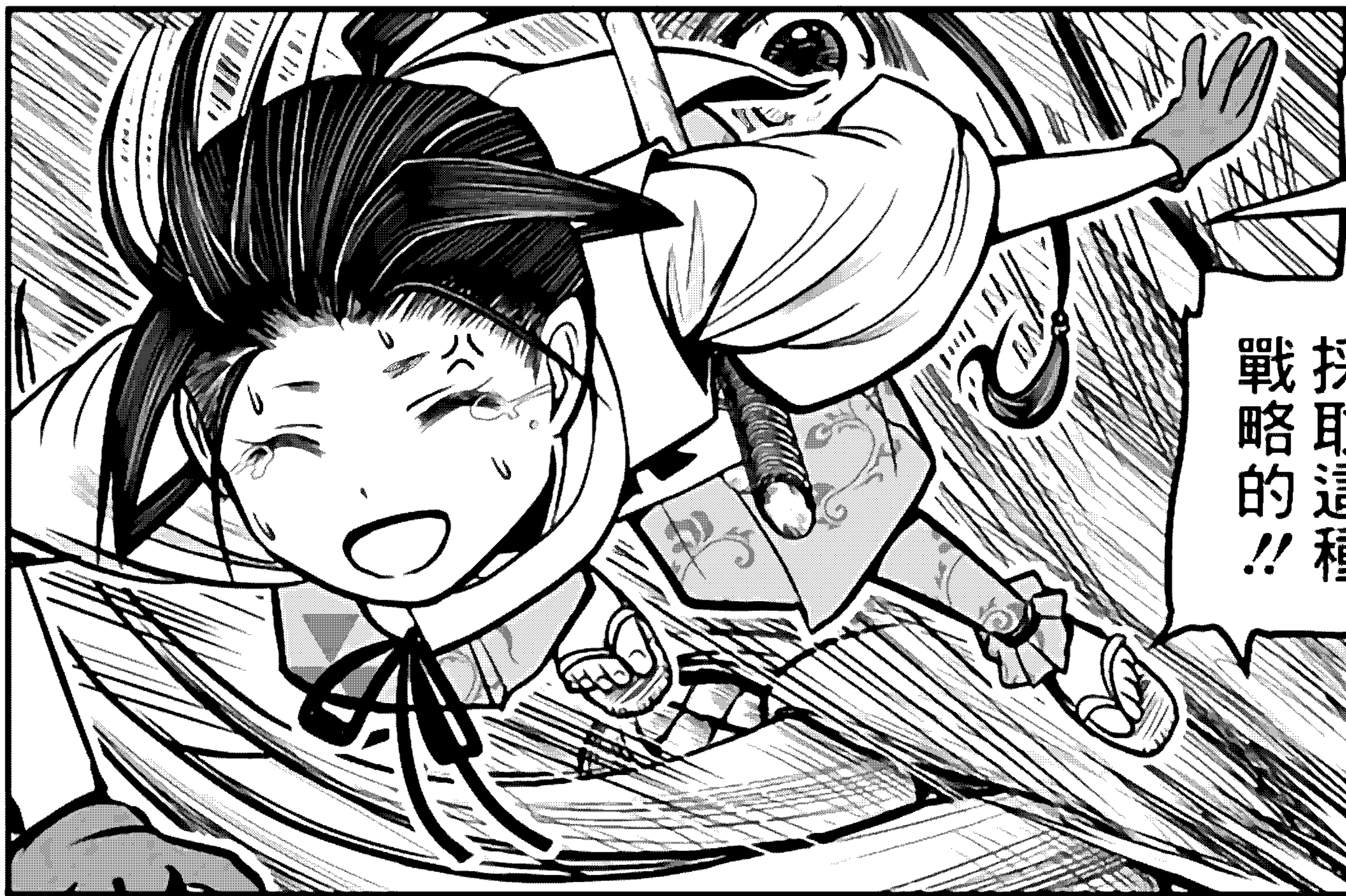


還得

邊躲邊領著它走
太強人所難了

哪有家臣
讓主君

採取這種
戰略的!!



：抱怨歸抱怨
神迴避連發
倒是毫不含糊

我們主君這
逃跑技術
真讓人歎為觀止



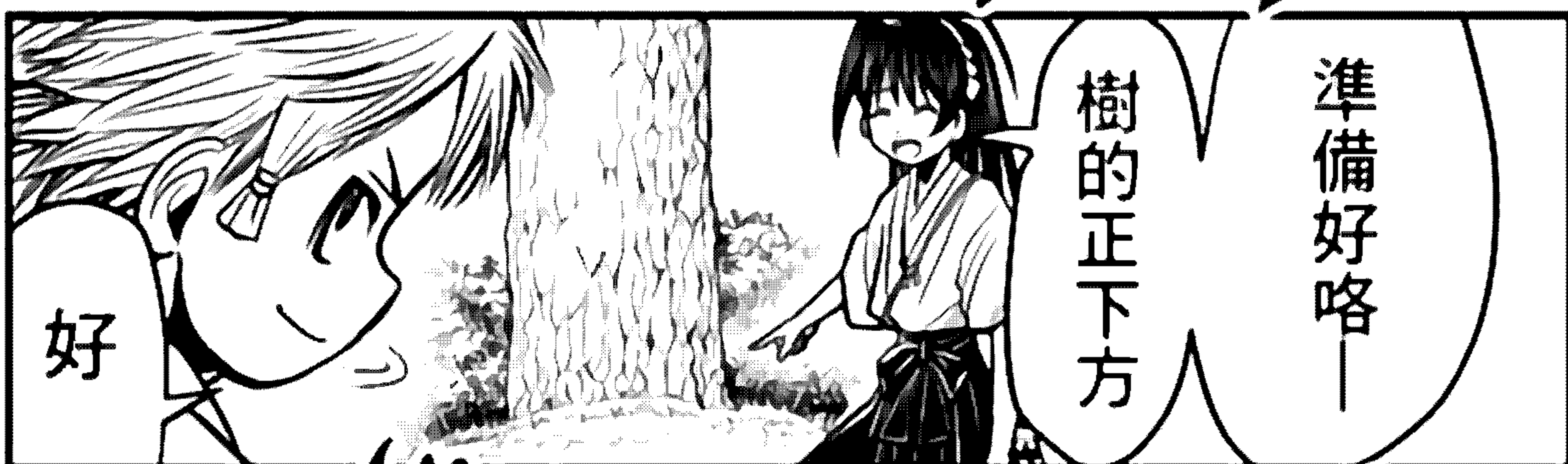
好——
輪到我了

正好有
形狀合適的

：哦

再加工
一下吧





準備好咯——

樹的正下方

好

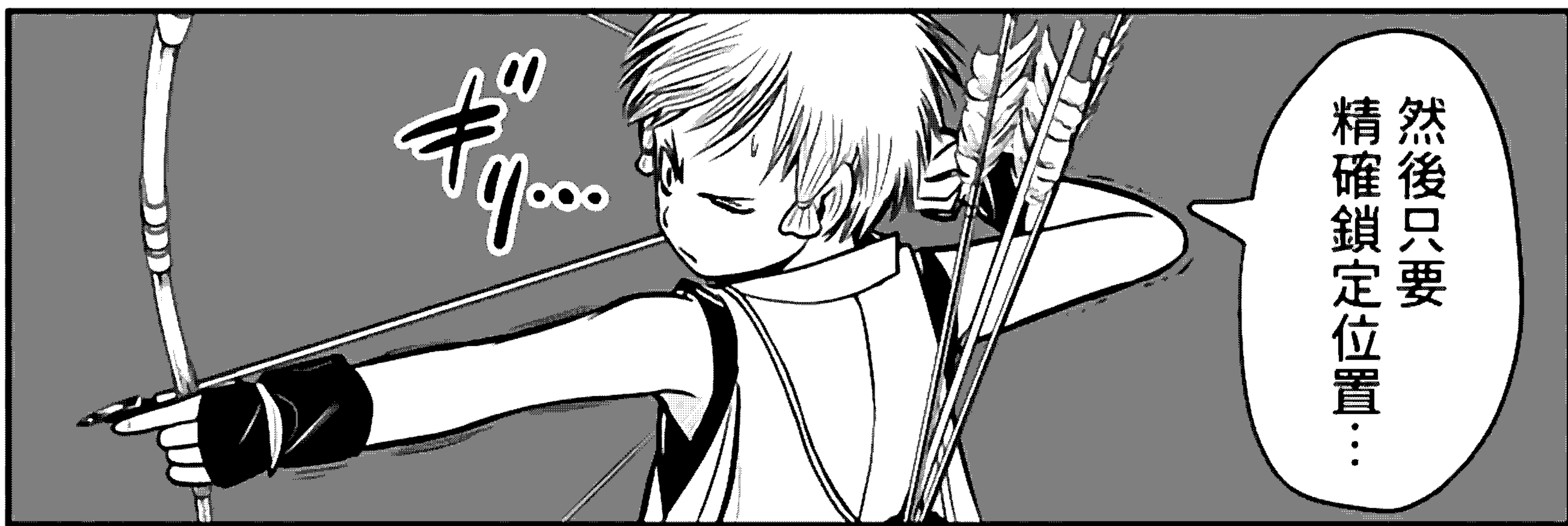


喂！

這傢伙來了
然後怎麼辦！

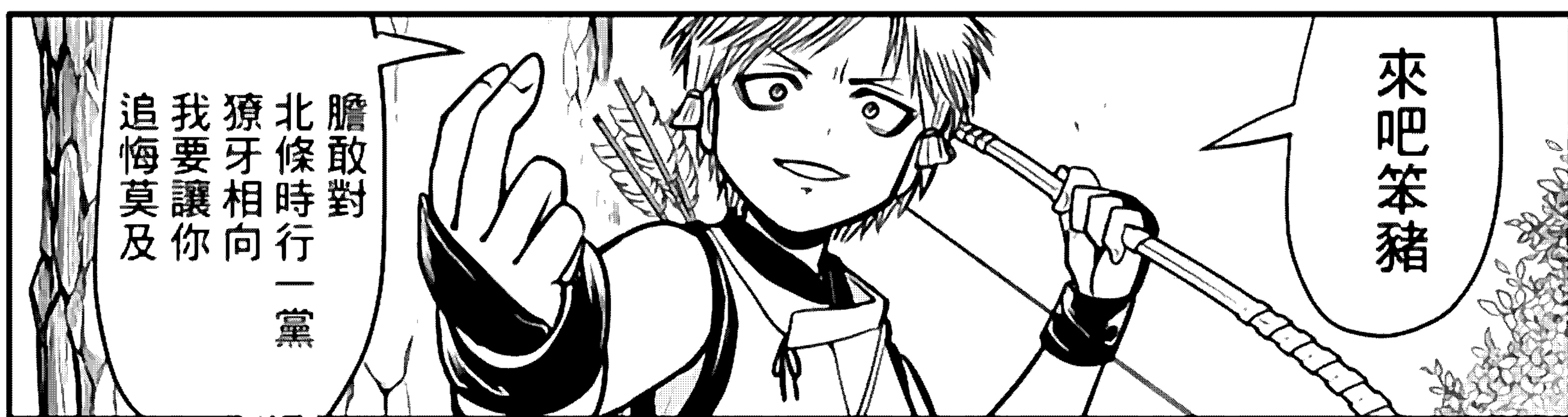
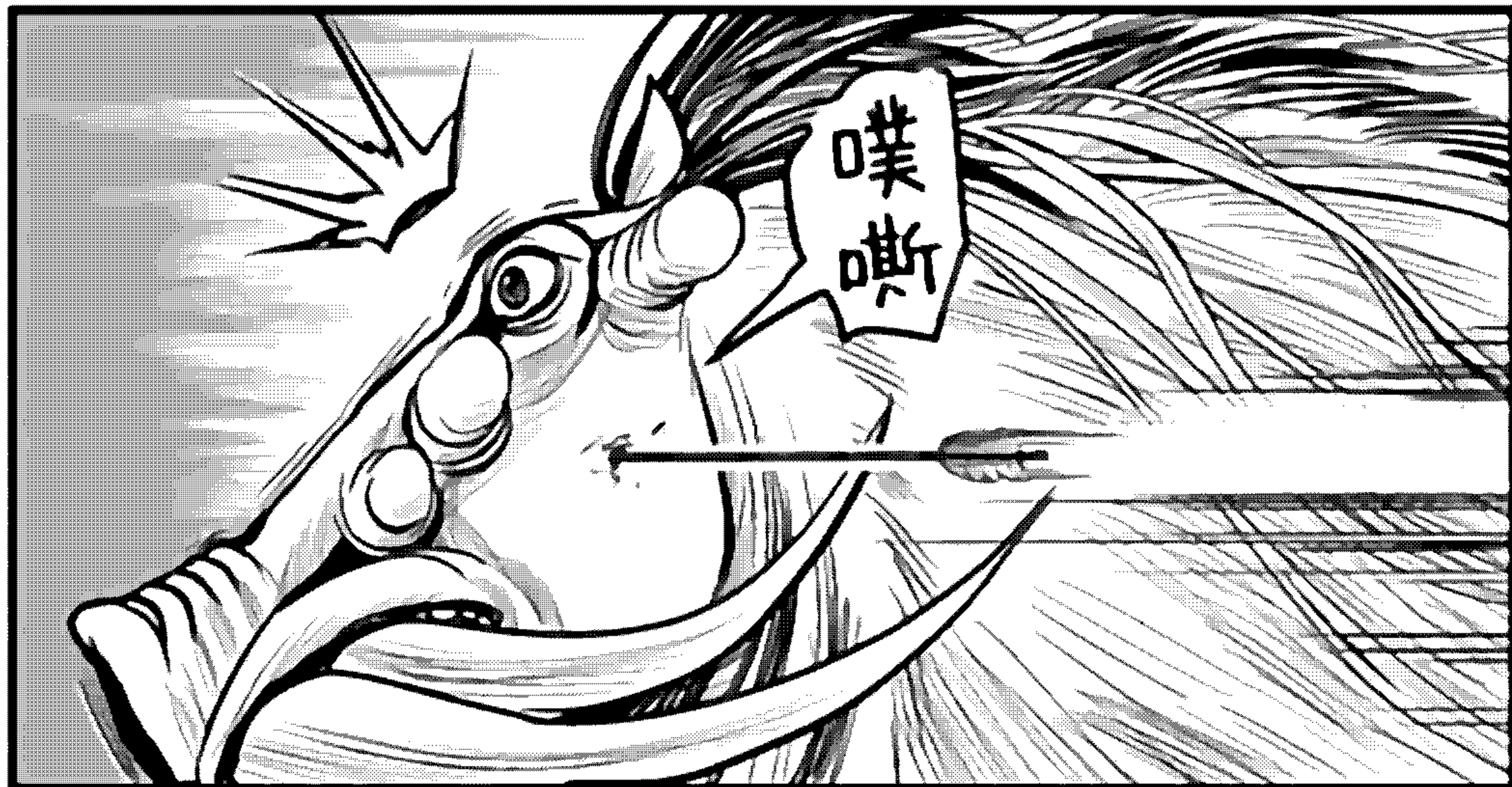
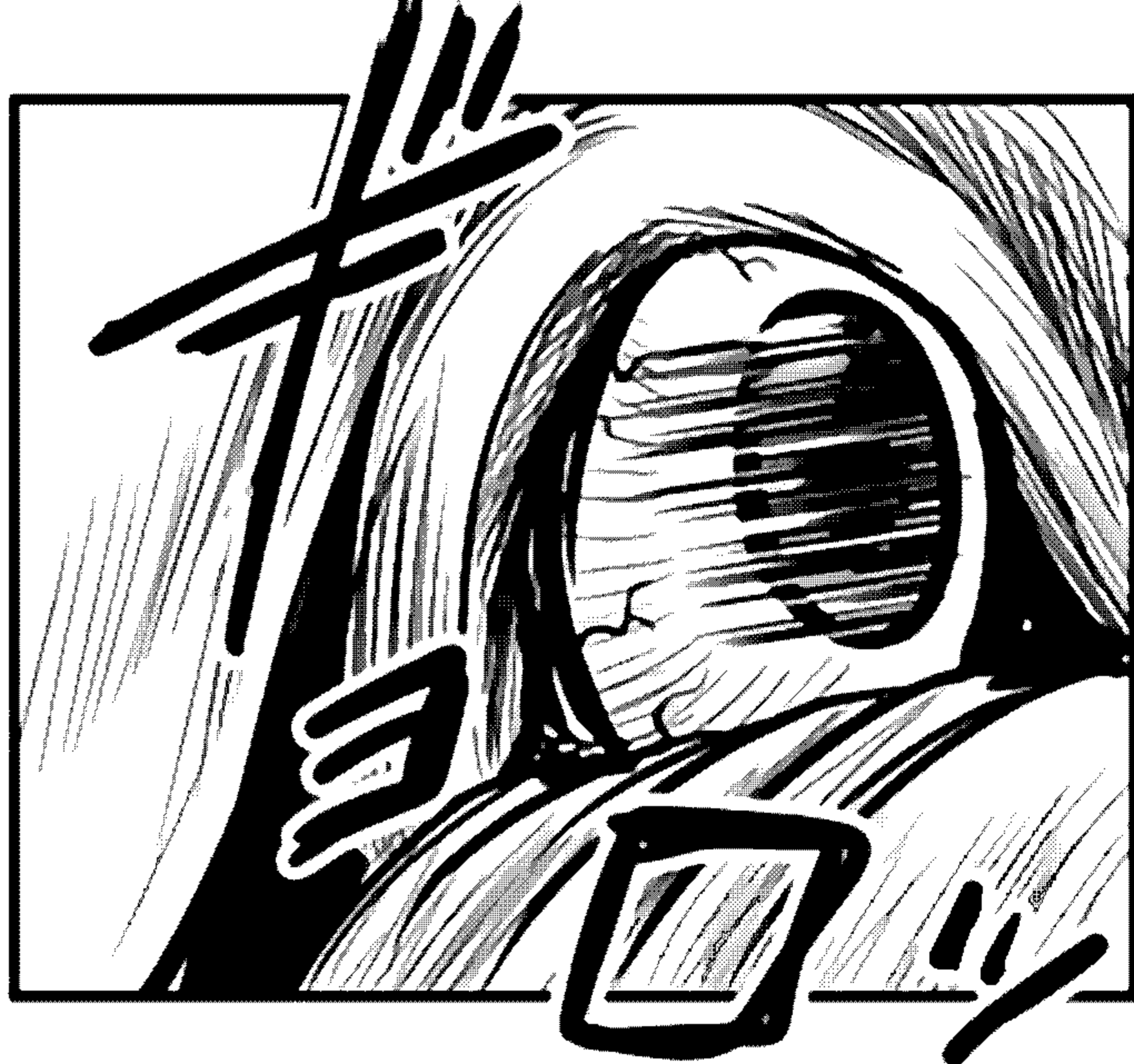


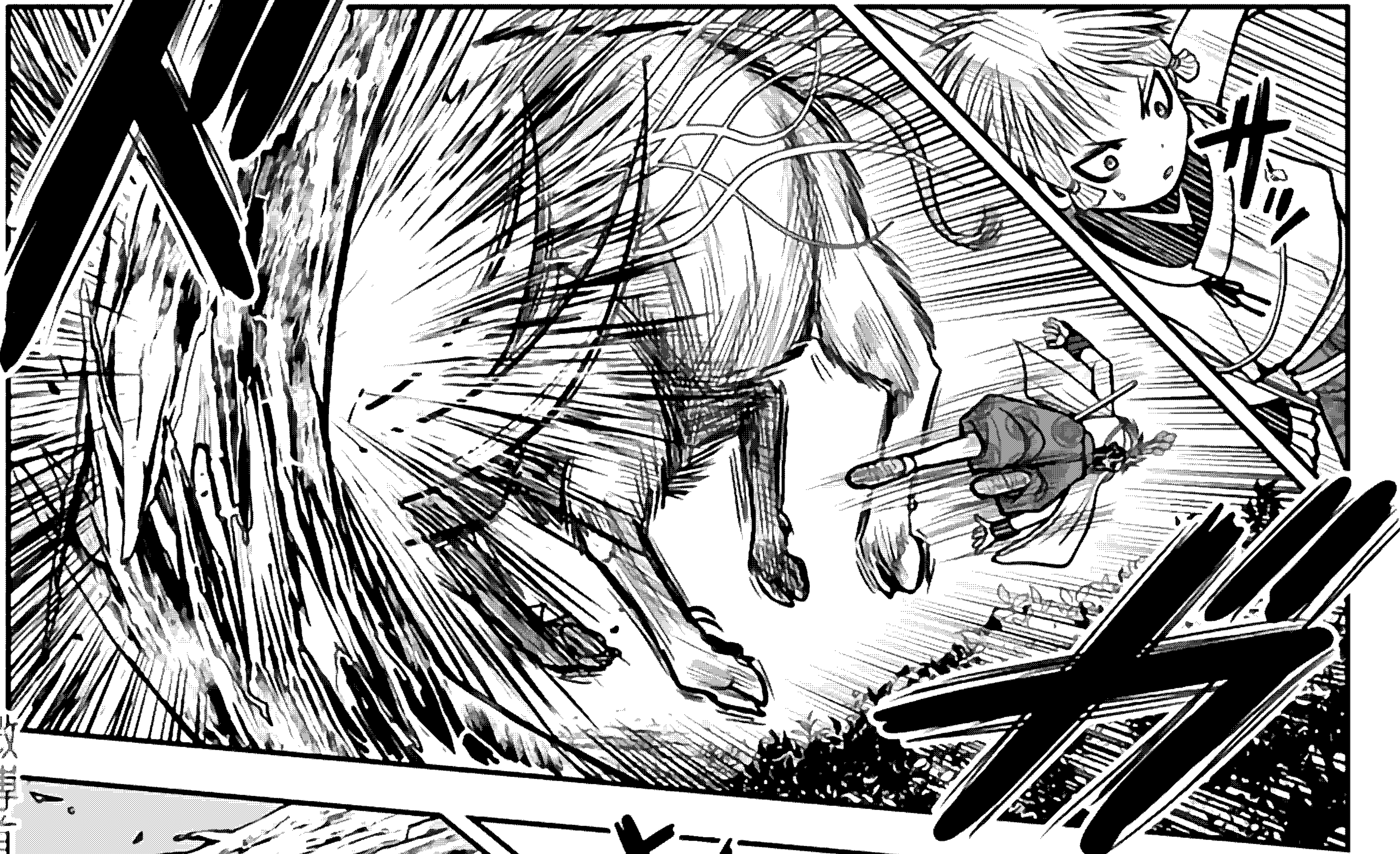
枝條都修剪過了
視野良好



≠y...

然後只要
精確鎖定位置……





微博首發◆禁轉微信◆營利&講漫禁用

還是跌落懸崖
都不能幹掉你

無論
刀削箭刺

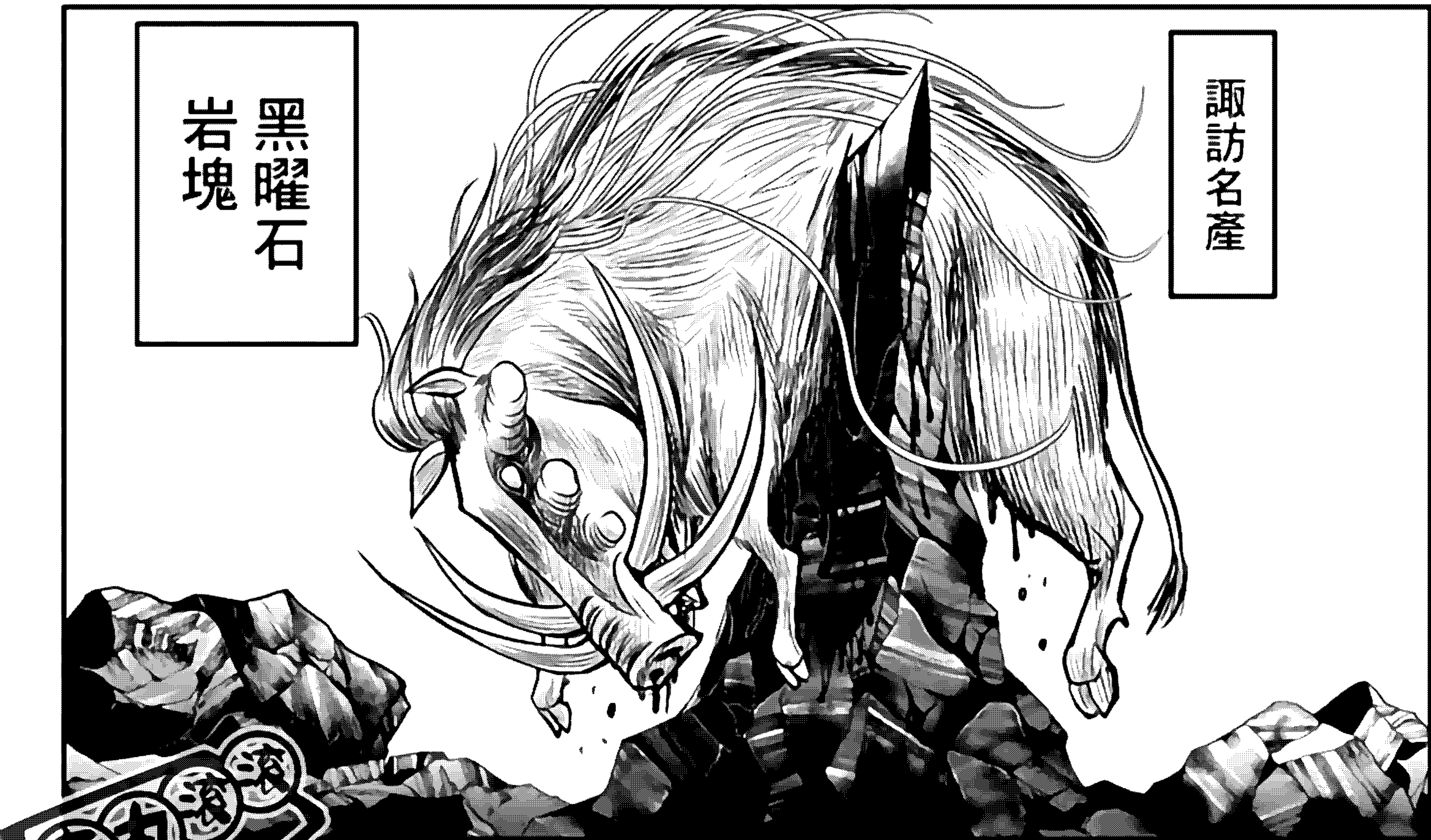
首發微博@混成連台會
測試群：648466051
翻譯：我不做人了
校對：古夕台殘丘
嵌字：桐ri、澤澤
監製：三十二

但很抱歉

下面矗立的
是神明的利刃

諏訪名産

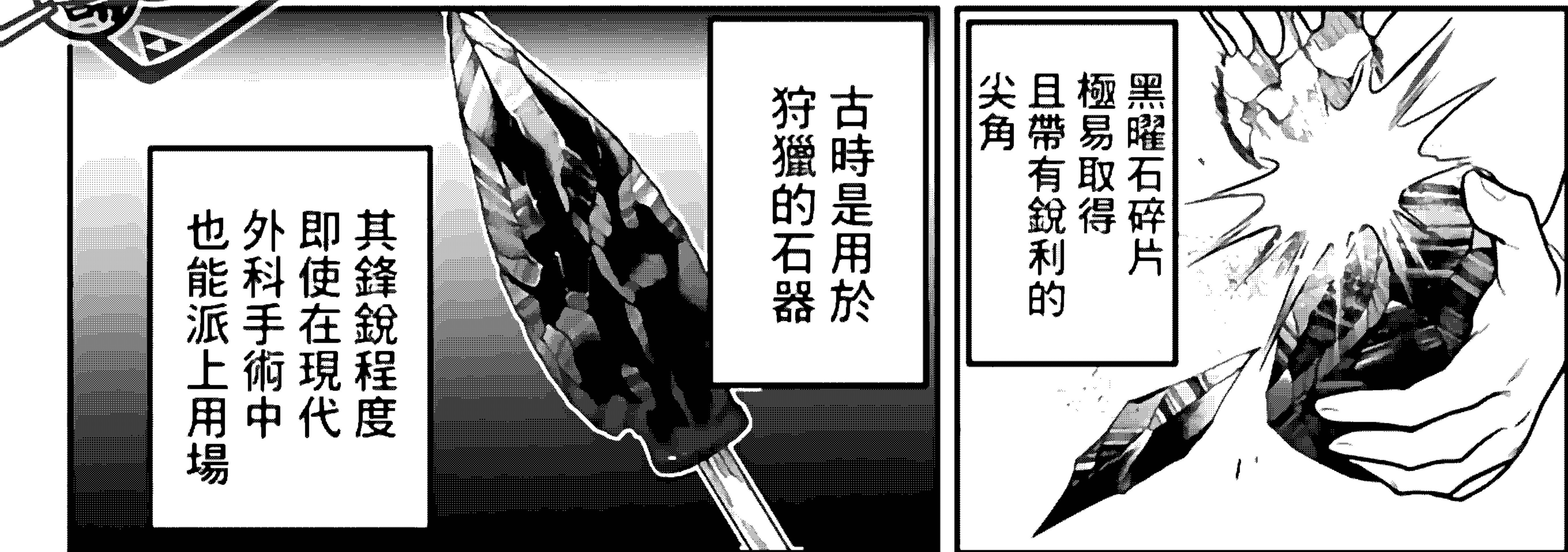
黑曜石
岩塊



黑曜石碎片
極易取得
且帶有銳利的
尖角

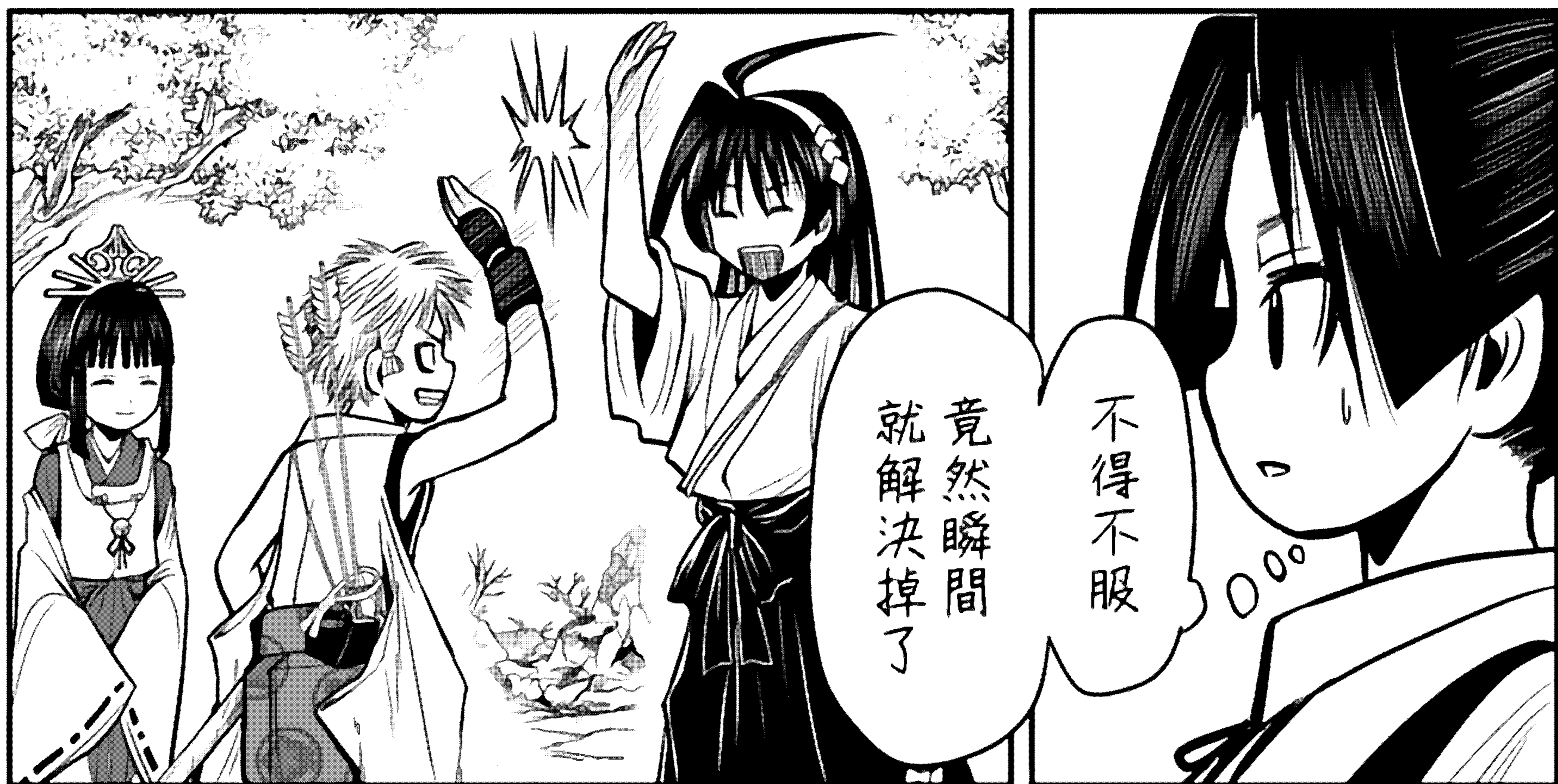
古時是用於
狩獵的石器

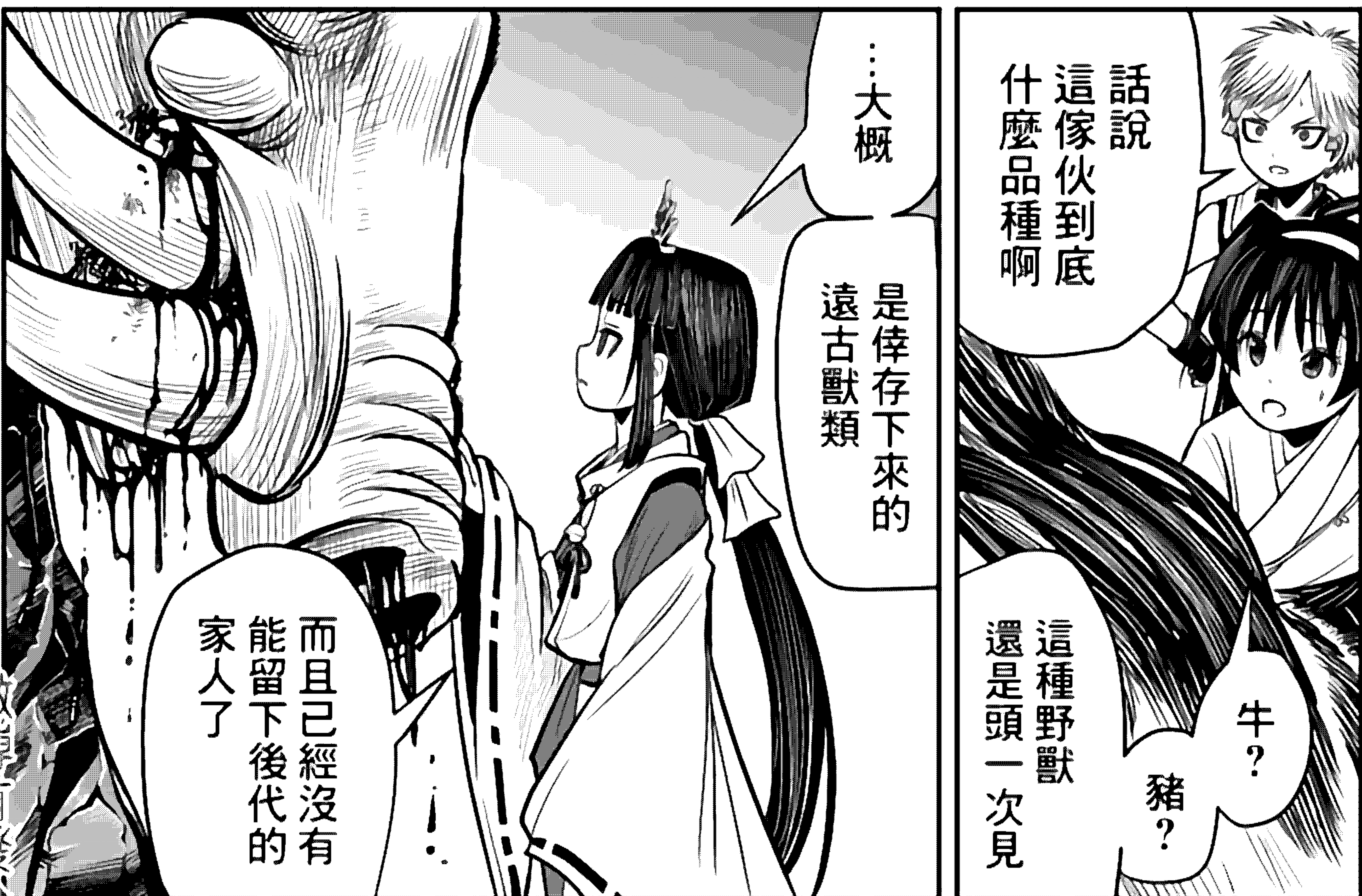
其鋒銳程度
即使在現代
外科手術中
也能派上用場

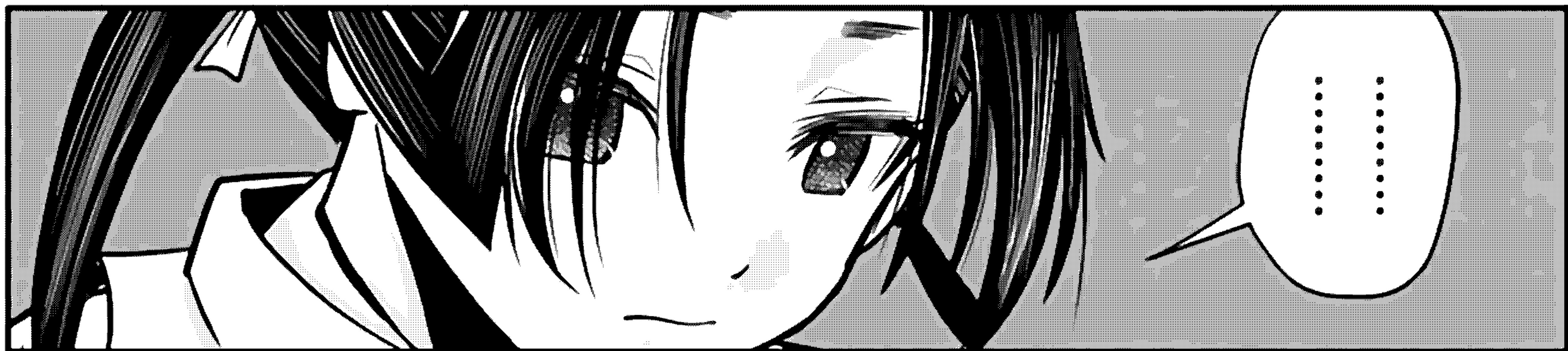


不得不服

竟然瞬間
就解決掉了







洗澡？

就在這裡泡

那得
先回家啊



我想把它
剝來吃掉

跑來跑去的
實在太累

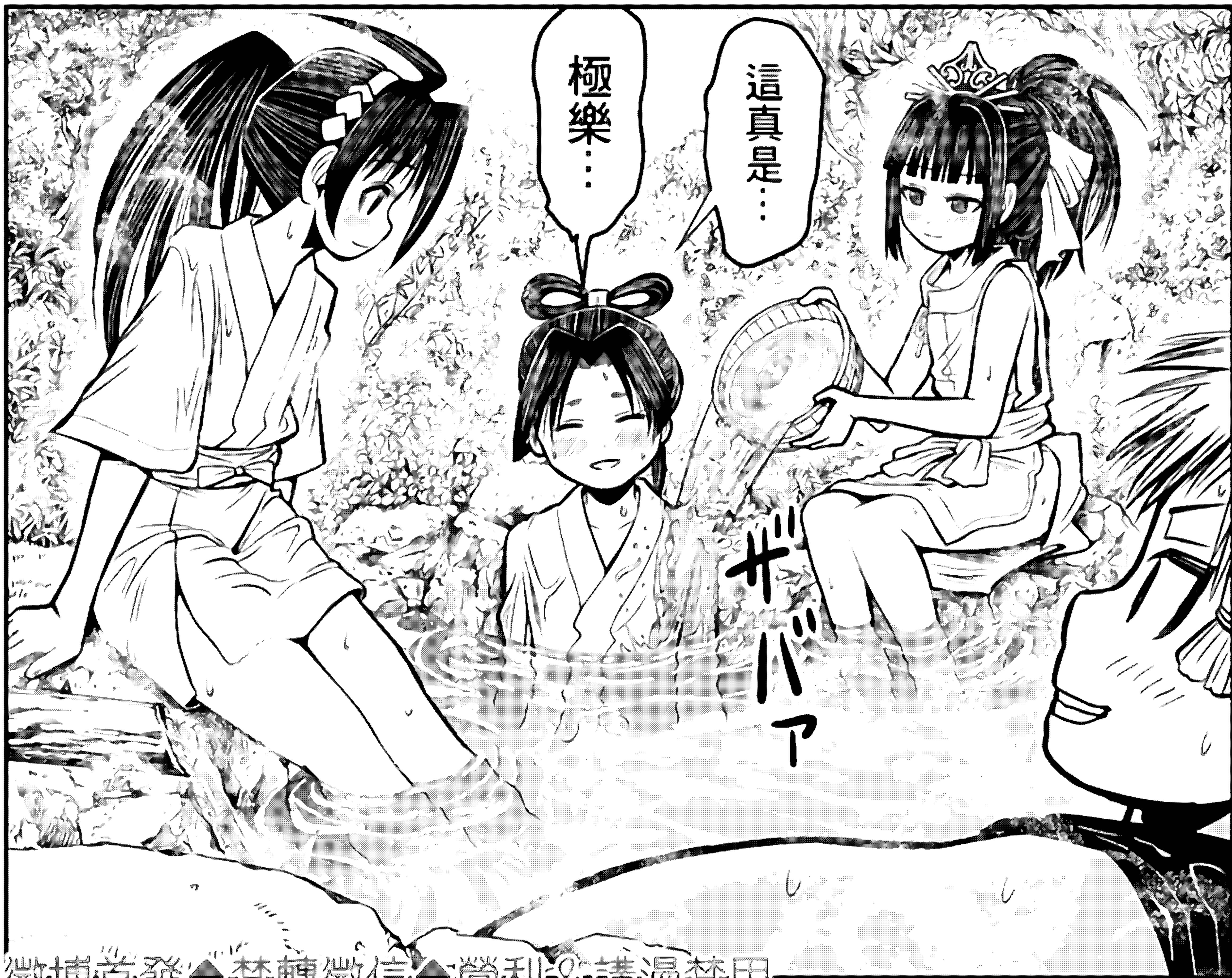


對了
少主大人

要不要
泡個澡？



來給你介紹
另一個
諏訪名產



叫時行黨
會把身份
暴露給敵人
想一個對外
專用的黨名吧

是哦

因為我們是
以少主逃跑
為戰略的
黨派……

夾尾絕塵
神遁黨

好遜！

甜黨！

不對勁！

萬年野黨

這能用嗎！！

呃——這……

吵吵
鬧鬧

少逃黨呢？

寫的時候
把逃改成兆吧

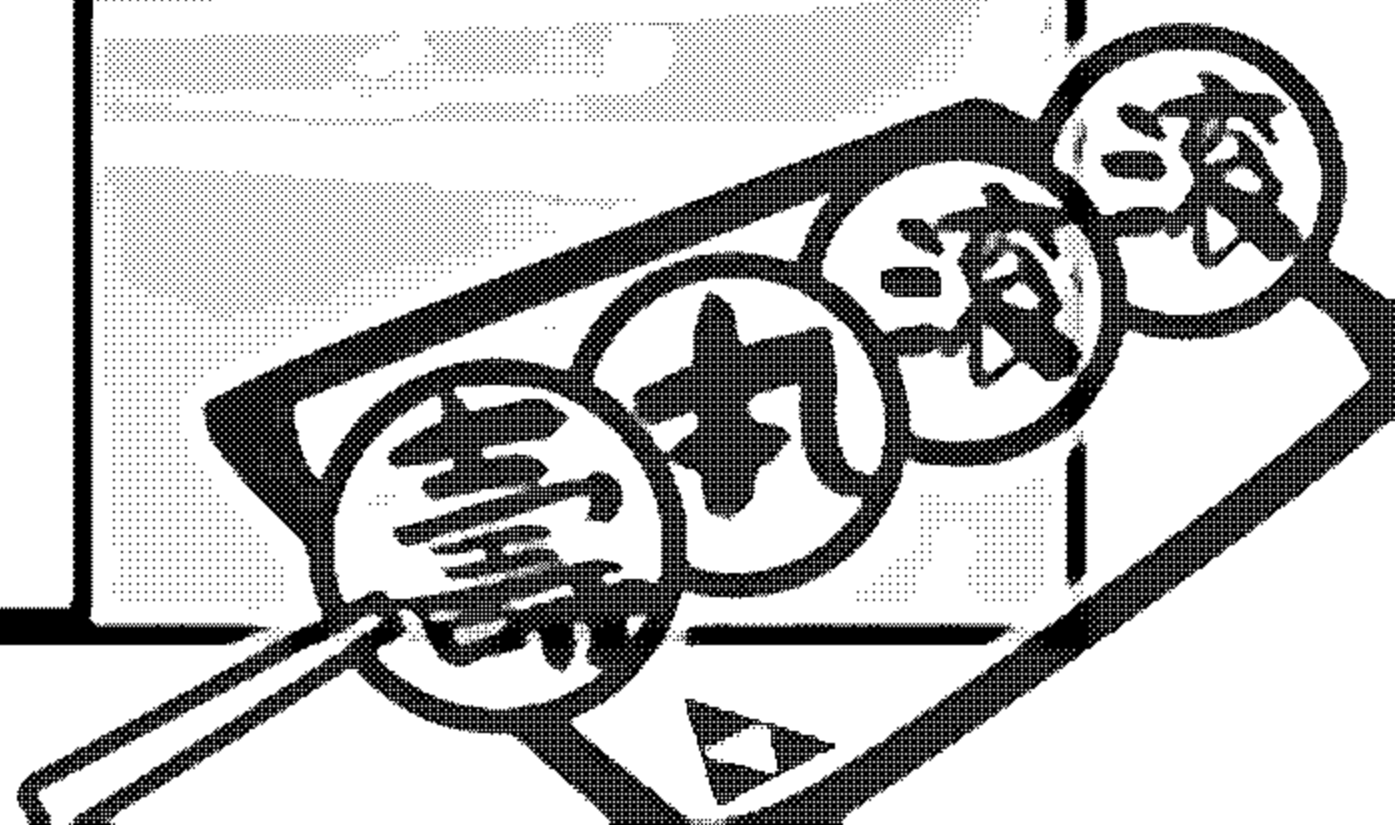
不錯啊
這個
少主
你怎麼看

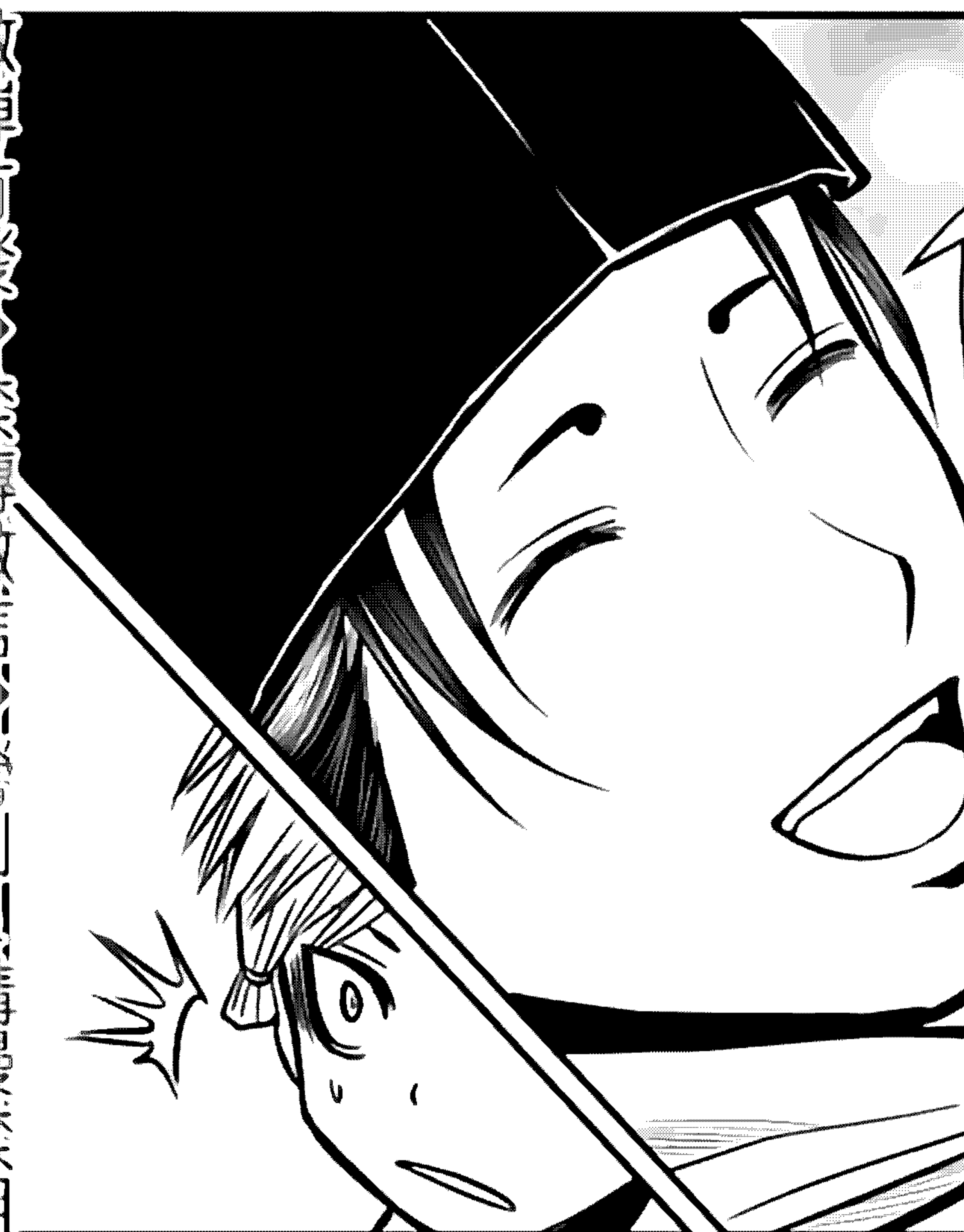
他們像對待
普通朋友一樣對我

爲了給
一無所有的我
打氣

同時也不忘
將我侍爲主君

シカッ





微博首發◆禁轉微信◆營利&講漫禁用



哈哈哈哈哈!?



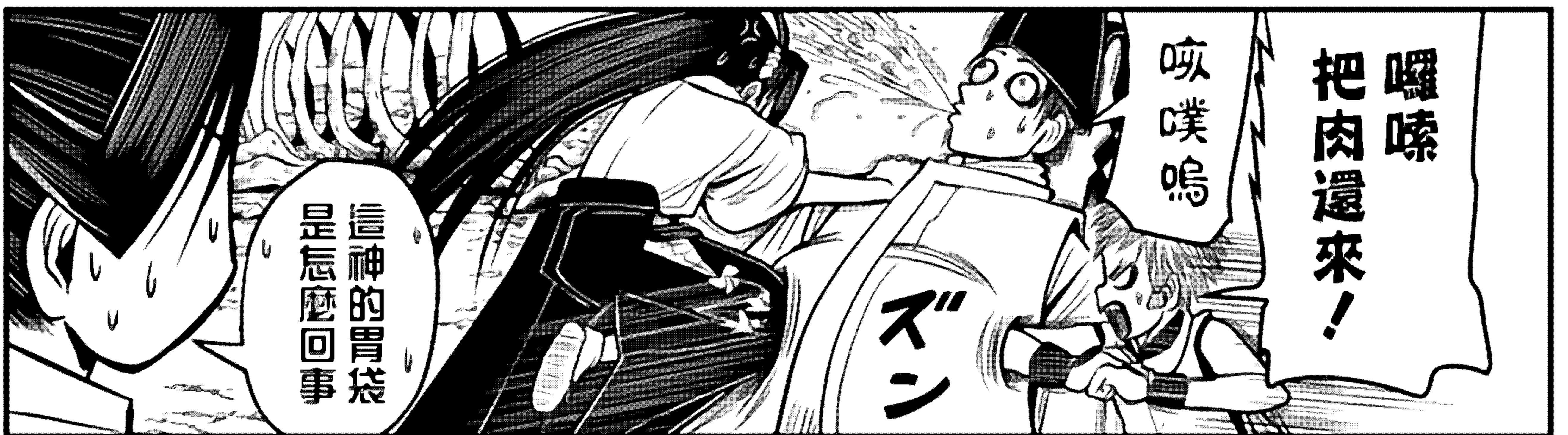
荒嶺之獸
若無緣於我
便惶惶暗中
不可終日



你憑什麼
把我們的獵物
吃光啊
笨蛋明神!

我只是在我
神聖的肚子裡
淨化它的靈魂罷了

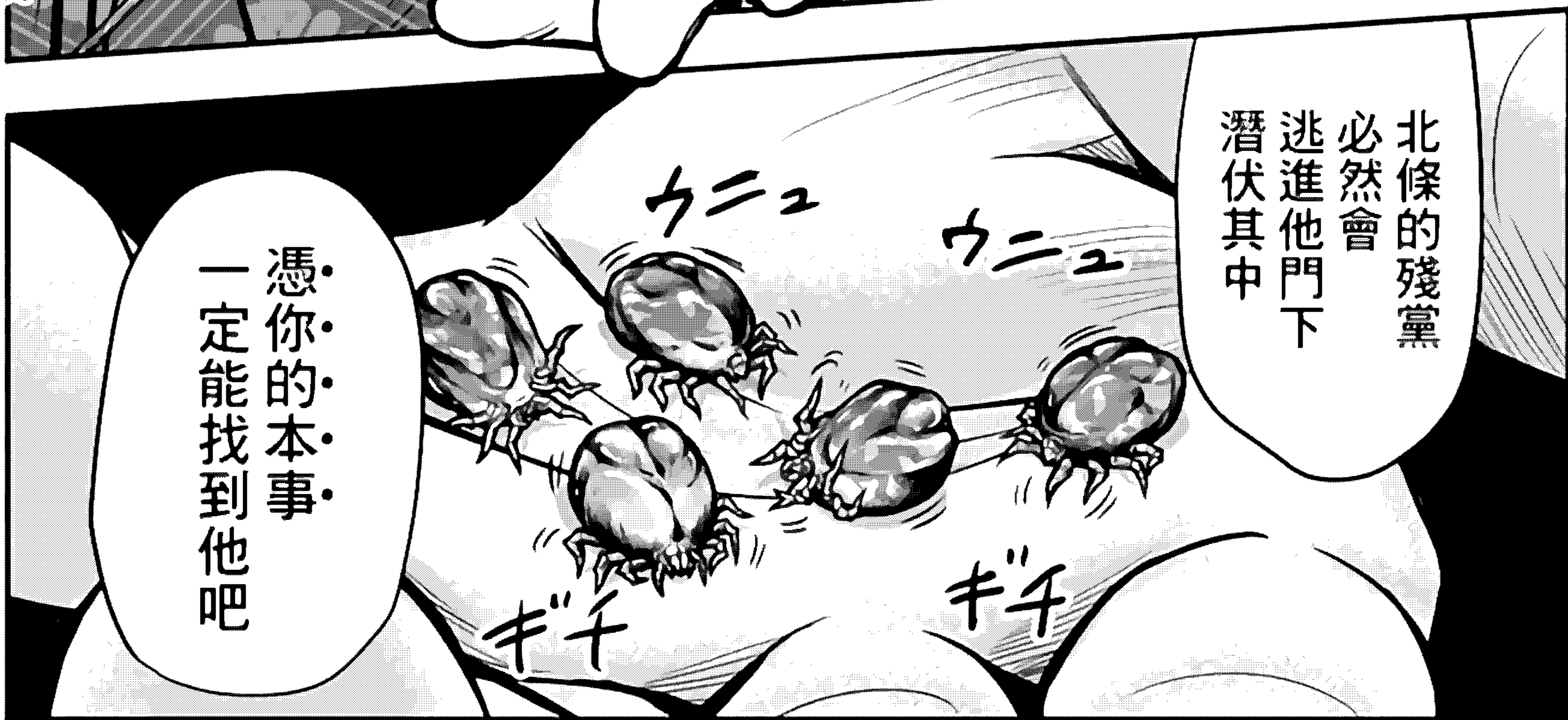
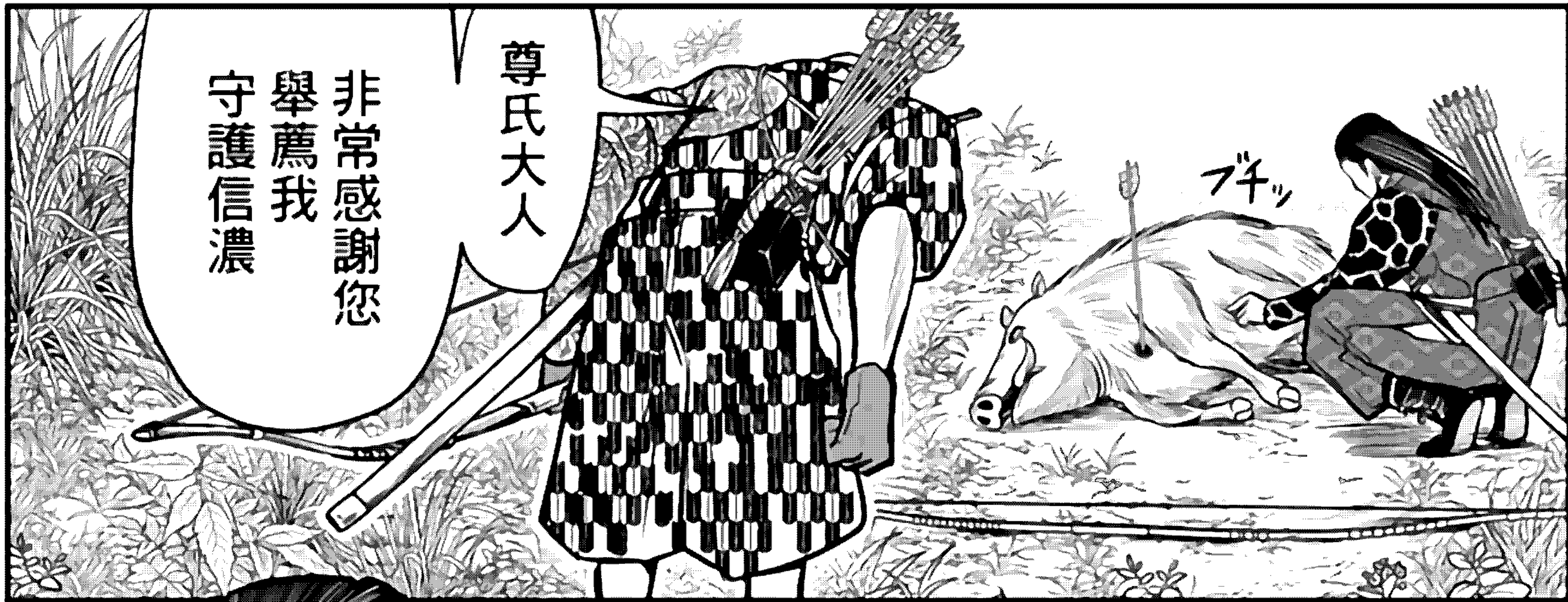
※要是我不吃它,這隻野獸會永遠在黑暗中彷徨

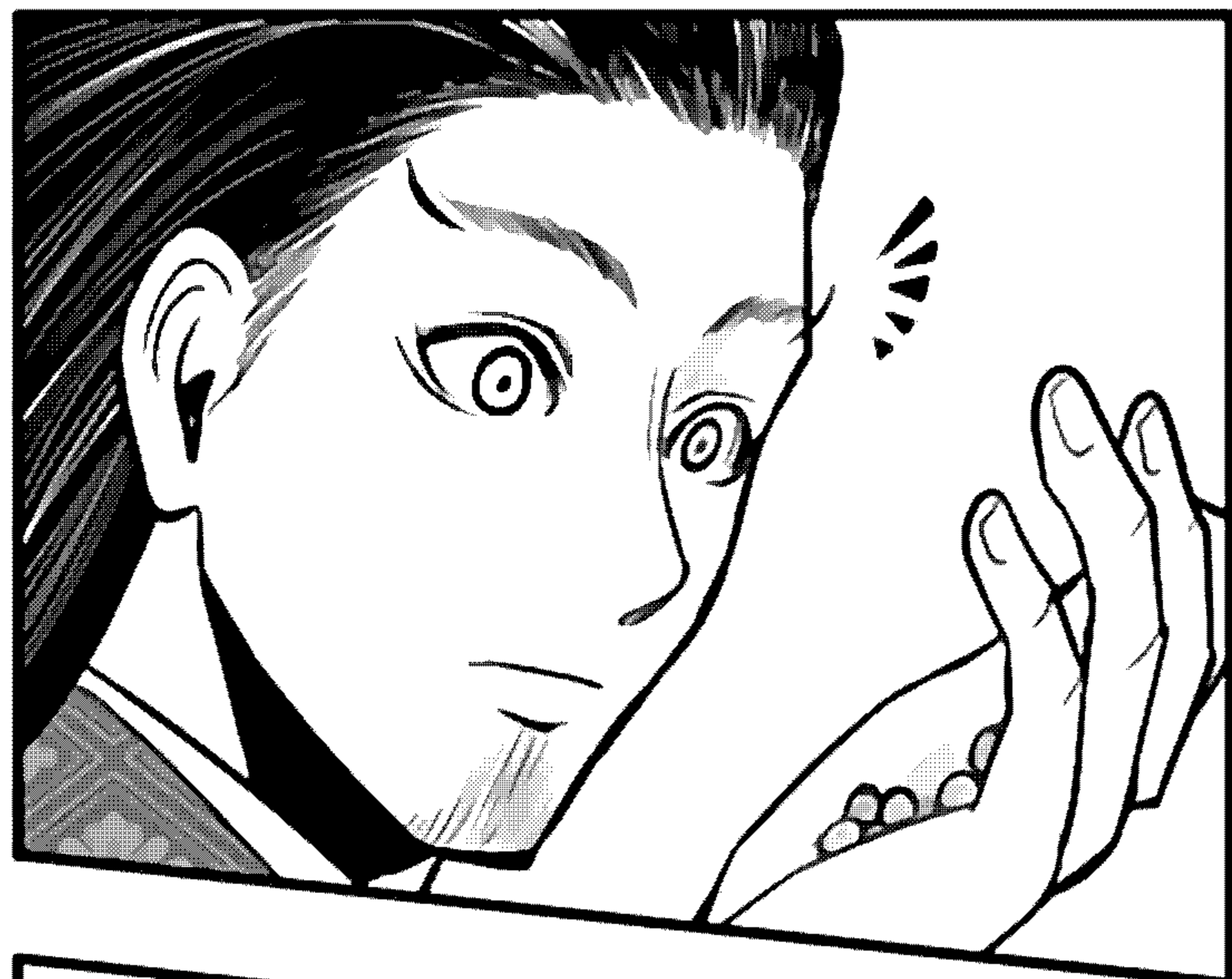


囉嗦
把肉還來!
咳嘆嗚

這神的胃袋
是怎麼回事

ズン





殿下方才
從豬腹上捉到的
蟬蟲

是四隻公的
和一隻母的



請交給

我吧

尊氏大人

我的弓箭

和視力

天下無雙

※相當於如今的縣知事



再小的蟲
都無處遁形

我定會
將其射殺

★逼近時行的
是宿敵派來的刺客

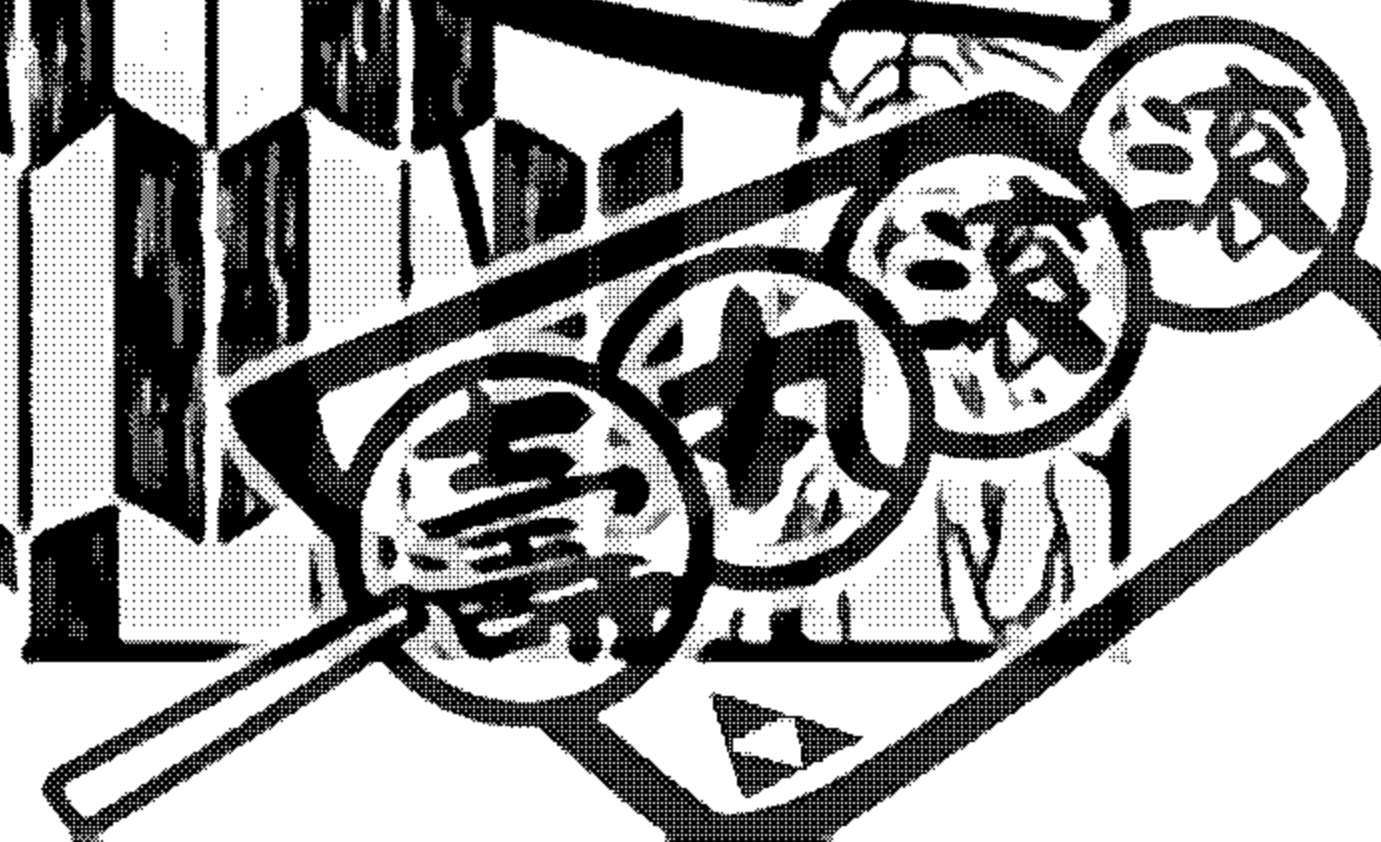
信濃守護※

小笠原 貞宗

少主溜得快

第6話

／本話完



解説上手の若君

時行達が苦しめられた牡丹。当時の肉食に今回は迫っていこう。

解説 本郷和人

1960年 亀有生まれ。歴史の研究者である東京大学史料編纂所の教授。おっちゃんこちよいでテレビや雑誌にも出演する。

南北朝鬼ごっこ列伝

その式

牡丹



中世の肉食に迫る!!

壹

日本人の身長は?

これを紐解くために当時の人々の体格を知るところから始めましょう。いま日本の成人男子の平均身長は170センチくらいでしょうか。じゃあ昔はどうだったか。それを知るためには、遺骨を調査すると手取り早いわけです。その結果分かったことは、古墳時代はそれなりに大きい。男性平均163センチ。ところがここから、右肩下かりに数値が低下していく。平安時代初期の平均161センチ、同末期は157センチ。江戸時代になると、155センチ。それで、明治になると反転して大きくなり始め、現代にいたります。

どうしてそうなった? 動物性タンパク質の摂取との連関が指摘されています。6世紀に日本にやって来た仏教は、生き物を殺すことは罪深いからダメ、と説きました。これを殺生禁断といいます。そのため、日本では肉食がタブーになった。鳥は食べて良い。兎は「〇羽」と数えるように、鳥扱いとするのでオッケー。けれども、イノシシやシカは食べてはいけません。牛、馬、犬もダメ。それでタンパク質不足になり、日本人の身長は縮んでいった。

貳

武士とは何ものか?

こう説明されると、それなりに分かったような気にはなります。でも、よく分からないことがある。その1、おなかかすいたら、何でも食べないか? そうですよ。たとえば天候が不順で米が収穫できなかった。江戸時代には多くの餓死者が山にいます。そうした切羽詰まった状況では人肉を、なんて話までありますので、動物を食べなかったとは考えられません。ただし、これは、平時と非常時は分けて考えようよ、ということで理解できる。でも、その2、武士と狩猟は切っても切れない関係にあるんじゃないの? そうなんです。これが4冊。

武士は平安時代に生まれました。生命財産を自分で守る。そのために武装する。それが武士です。じゃあ、鎧を着て兜をかぶれば、武士と認められるか。そんなに簡単ではありません。大狩に出場して初めて、武士なのです。

当時、国(今なら県)を治める役人は京都からやってくる国司(No.1国司がいまの県知事)でした。任期は1年。国司は任期中に一度、その土地の神さまに感謝を捧げるべく、大々的な狩猟を催す。これが国司主催の「大狩」で、このセレモニーへの参加を許可された者が、すなわち武士なのです。だから、武士は狩りができなければならない。馬を乗りこなし、弓を操らねばならない。そして狩りで収穫した獲物、イノシシやシカは神さまへの捧げ物になりました。

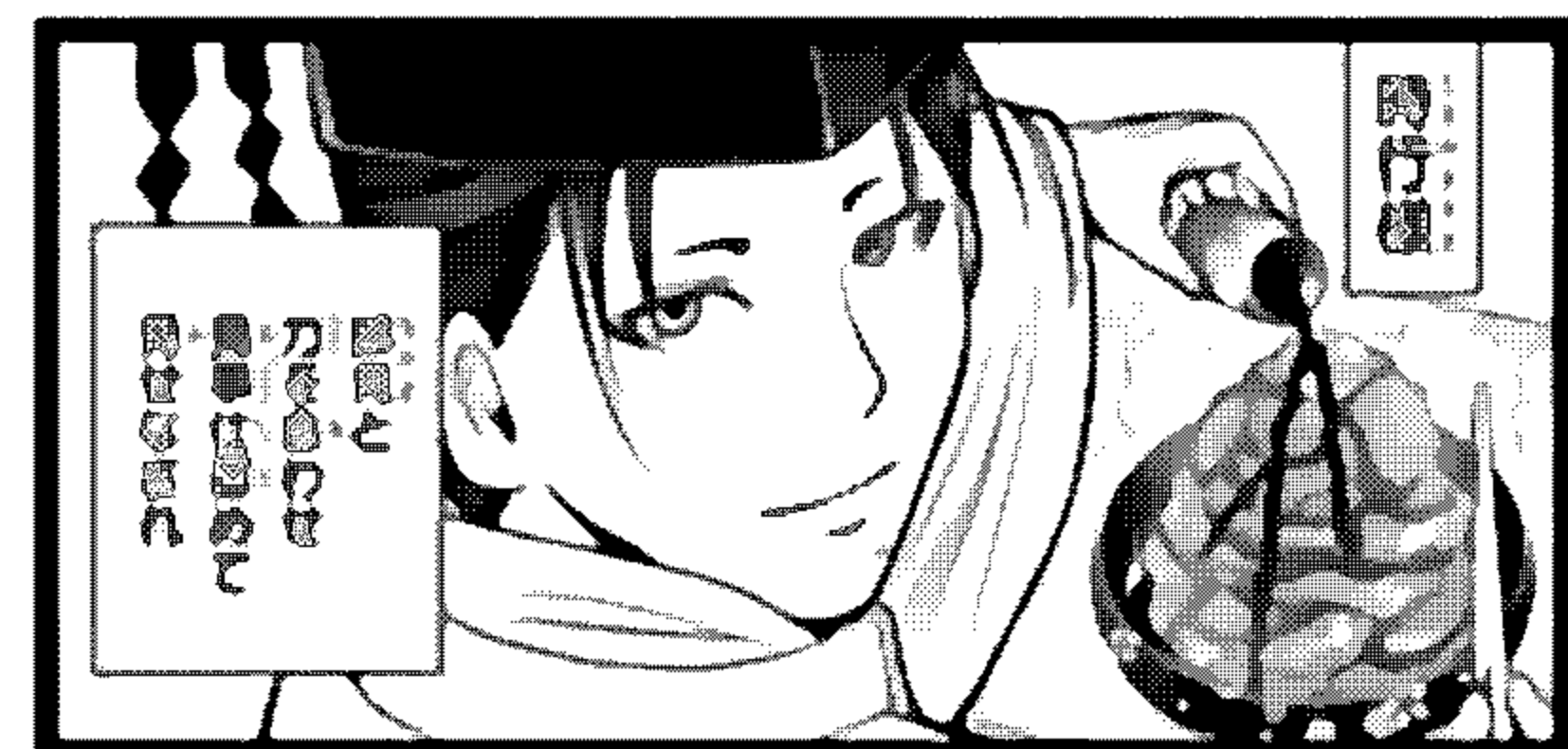
こうして生まれた武士ですから、自分の土地で狩りを催し、狩猟の腕を磨いた。イノシシやシカをとっていたのです。さて、ここで。せっかく手に入れた獲物を食べなかったのかな? 腐らせて捨てた? それはもったいない。やっぱり食べたと思うのですよね。調味料としては塩しかありませんけど、焼いたり煮たりして塩味で食べる。すると、旨いはずなのです。魚とは違ったおいしさがある。ならば、月一くらいで狩りをしてイノシシやシカを仕留め、肉は塩漬けにして食卓に…。いやあ、いつもは食べてないから、背が低くなっていったんですよ。武士の食卓に肉があった、というような資料はありませんし、常食にしていた形跡はない。なぜだろう? 殺生禁断の教えが徹底していたから? どうもよく分かりません。答えが出てないのです。



参

諏訪の神様の特異な性格

諏訪地方には数多くの縄文遺跡があります。諏訪湖という湖があり、木々の恵も豊か。飲み水があつて、いつでも火をおこせる。人が住むのに適していて、古い時代から開けた地域。それが諏訪でした。諏訪神社については説明する機会が別にあると思いますので詳述はしませんが、狩猟文化の息吹が残るこの地域の神さま、諏訪大社には他には見られない特徴がありました。それは肉が供物になること。古くは神と仏は別ちがたく存在しましたので、仏教の殺生禁断は、神社にも影響を与えます。神社の境内はやはり殺生のけがれを嫌います。ですから、神さまに「海のもの」として魚をお供えすることはあっても、「山のもの」にイノシシやシカの肉は含まれません。ところが、諏訪の神さまは「生け贄」を求めるのです。そこが特殊です。こうしてみえていくと、時行が化けイノシシの牡丹と戦うことは、実に納得のいく話になります。ぶじに牡丹を倒したあかつきには、みんなでおいしく「ぼたん鍋」かな。頼重どのは神官でもあります。そういうわけで、イノシシ肉に存分に舌鼓を打つんじゃないかな。いただきます。



↑時行達が牡丹と戦った時でも肉に舌鼓を打つ頼重。

卷末語

至今沒懂的句子：

amazon的

『按下這裡就能撕掉膠帶』

翻譯

我不做人了

校對

古々谷殘丘

嵌字

桐ri

澤澤

測試群

648466051

壽丸滾滾漢化

首發微博

@混成連合會

歡迎加入漢化

順位13 / 21

WJ2021 NO.13

第六話

少主溜得快

監製

三十二